

令和5年度根室管内道徳教育推進研修だより

北海道教育庁根室教育局教育支援課義務教育指導班

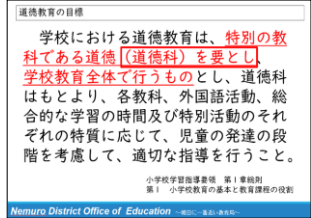
根室管内の道徳教育の充実に向けて

令和6年2月17日(土)、根室市総合文化会館において、「根室の子どもたちの『心』について考える会」を行いました。本会では、根室市及び根室管内の道徳教育の充実を図ることを目的とし、根室市立成央小学校の道徳教育の実践の紹介、シンポジウムなどを行うことにより、学校、家庭、地域が連携して子どもの心を育てることの重要性について理解を深めることができました。そこで、本会の成果を広く周知し、各学校や先生方の今後の取組の充実につなげたいと考え、本資料を発行することとしました。

【説明】学校における道徳教育とは

はじめに義務教育指導班から、学校における道徳教育について説明しました。道徳教育は「自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者とともによりよく生きるための基盤となる道徳性を養うこと」、「学校における道徳教育は、特別の教科である道徳(道徳科)を要とし、学校教育全体で行うもの」であることについて参加者と共有しました。

また、学校の道徳教育の充実を図るためには、家庭や地域社会との連携、協力が必要であることについて確認をしました。



【スライド資料から】

【シンポジウム】子どもたちの「心」を育てるために、学校、家庭、地域ができること

根室管内の子どもたちは、「自分にはよいところがある」と回答した割合が全国と比べて低い傾向にあることから、子どもたちの自尊感情の醸成に向け、道徳科はもとより、あらゆる教育活動を通じて、道徳教育を一層充実させる必要があります。

シンポジウムでは、「子どもたちの『心』を育てるために、学校、家庭、地域ができること」をテーマに、学校、家庭、地域がそれぞれの立場で、取り組んでいることや今後できることについてお話していただくことにより、学校と家庭、地域社会との連携した取組の在り方について理解を深めました。



【シンポジウムの様子】

子どもたちの心の成長のために、心がけていること、取り組んでいること

環境美化の意識を教職員と共有することや、教育課程に、**子どもが主体性**をもち、**よりよくすることが**できる活動を位置付けること。(校長)

道徳科の授業において、子どもが**多様な他者の考えに触れたり**、「自分ならどうするか」という**観点から道徳的価値と向き合**ったりする学習を心がけていること。(学級担任)

子ども一人一人の**挑戦を支えること**ができる**家庭環境**づくりや、親が学ぶ姿を子どもに示すこと。(保護者)

交通安全ボランティア指導員として、校区内の小・中・高校生**一人一人に必ず声をか**けること。(地域住民)

多様な他者を尊重し合い、ともに幸せになる子どもたちを育てるために、それぞれの立場でできること

学校と地域が連携、協力し、**子どもが多様な他者と関わるこ**とができる**機会**を創出する。(校長)

子どもが様々な体験を通して、**成功や失敗の経験**を積み重ねる中で、励まし合うことができるような学級をつくる。(学級担任)

まずは自分の子どもに、地域住民に**自分から挨拶す**ることができる**よう**声をかけたり、地域の行事に子どもと一緒に参加したりする。(保護者)

子どもたちから元気な声で挨拶してくれる**よう**になってもらいたいのので、まずは大人から挨拶をするようにする。(地域住民)

【座談会】安心・安全な学校で子どもたちがのびのびと育つために

シンポジウム後、参加者同士で「安心・安全な学校で子どもたちがのびのびと育つために」をテーマとして、いくつかのグループに分かれて座談会を実施しました。説明やシンポジウムの内容を踏まえ、「子どもが元気に登校し、学ぶためにも『早寝、早起き、朝ご飯』が大切だ」、「教師が毅然とした態度で、『だめなものはだめ』とはっきり子どもに伝えることも必要ではないか」など様々な意見が聞かれました。



【座談会の様子】

道徳教育の主体は学校ですが、学校の道徳教育の充実を図るためには、家庭や地域社会との連携、協力が必要です。例えば、**本会のように、子どもたちの道徳性の発達や学校、家庭、地域社会の願いを交流し合う機会をもつことにより、自校の道徳教育の方針を家庭や地域社会と共有し、家庭や地域社会の願いを自校の道徳教育の改善につなげるとともに、道徳教育に関わる意識を高めることが大切**です。